

確かな学力を育む一人一台端末の効果的活用

■研究指定・委嘱地域(指定校)

大任町教育委員会(大任小学校、今任小学校、大任中学校)
行橋市教育委員会(行橋南小学校、仲津中学校)

研究の目標

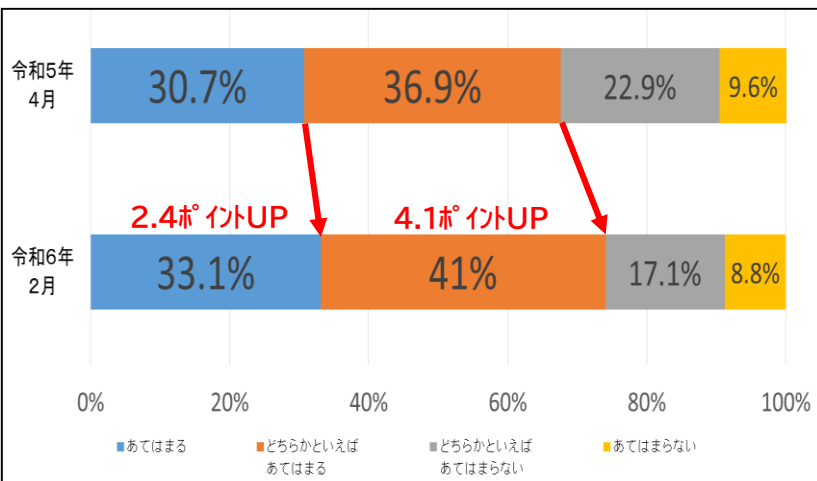
確かな学力を育むための一人一台端末の効果的活用の在り方について究明し、各教科等の事例紹介等を通して、県内における一人一台端末の効果的な活用を推進する。

研究の内容

- 視点1: 児童生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育む各教科等における効果的な活用
- 視点2: 児童生徒のICT活用能力の育成
- 視点3: 全教職員のICT活用能力の向上
- 視点4: 効果的活用を図るための推進体制

大任町の成果

学びに向かう力が高まりました。また、一人一台端末を活用することで、積極的に発言しようとする姿や新たな問題に挑戦しようとする姿が見られるようになりました。



【関連する質問項目】

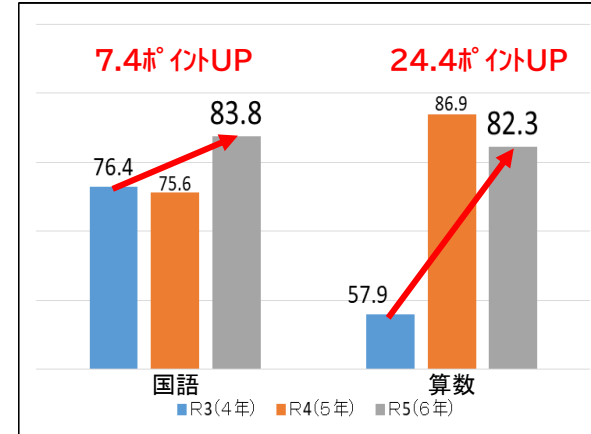
- ・将来の夢や目標をもっていますか。
- ・家で自分で計画を立てて勉強していますか。
- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- ・各教科などで学んだことを生かしなが、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- ・学習で分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていますか。
- ・授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか。

小学6年生・中学3年生: 学びに向かう力に関する回答状況(まとめ)

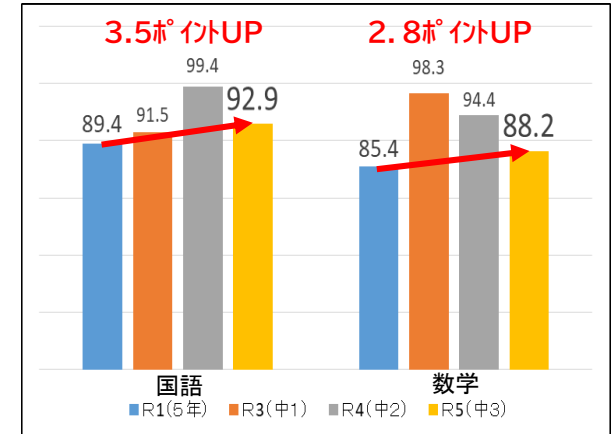
行橋市の成果

基礎的・基本的な学力を中心に学力が上昇しました。また、非認知的能力については、小学校においては「創造性」「探究心」が、中学校では「探究心」「コミュニケーション力」が上昇しました。

行橋南小学校



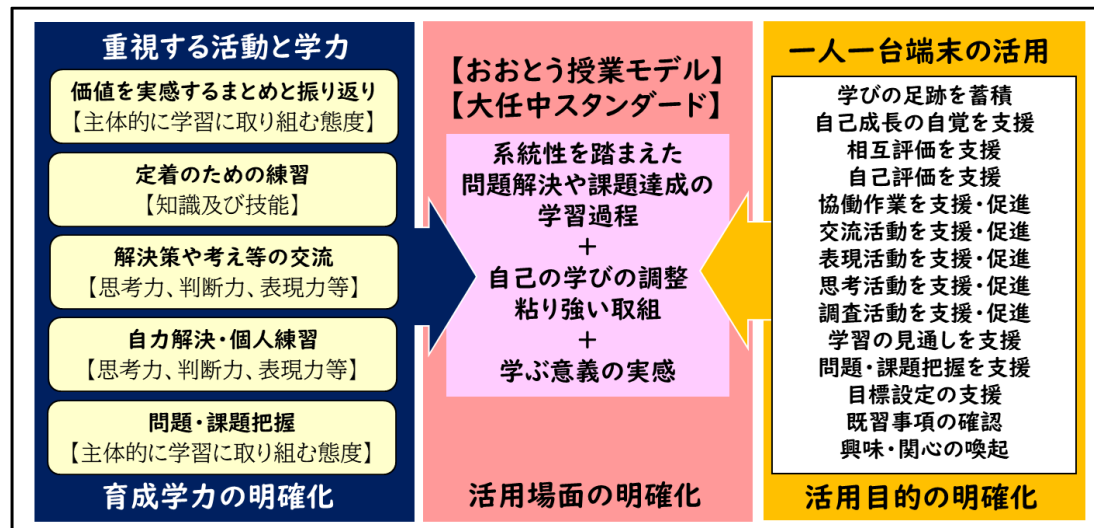
仲津中学校



県学力調査及び全国学力学習状況調査の標準化得点の推移(※小4は標準学力調査)

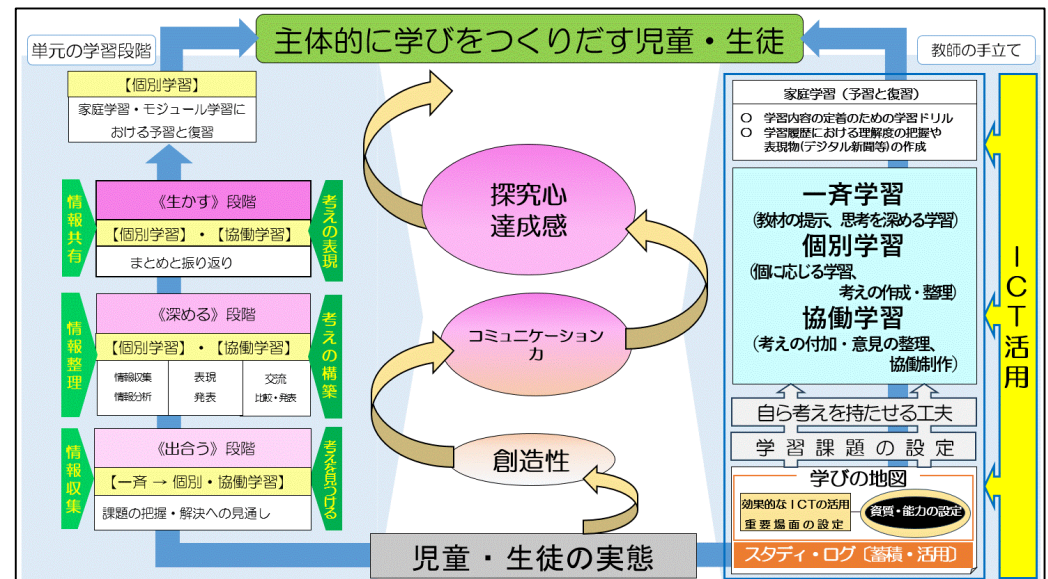
大任町の研究ポイント

学ぶ意義を実感し、学びに向かう力を高める児童生徒を育成するために、小中9年間の系統的な指導の指標として目指す児童生徒の姿を設定し、学習過程の中に、一人一台端末の効果的な活用を位置付けました。



行橋市の研究ポイント

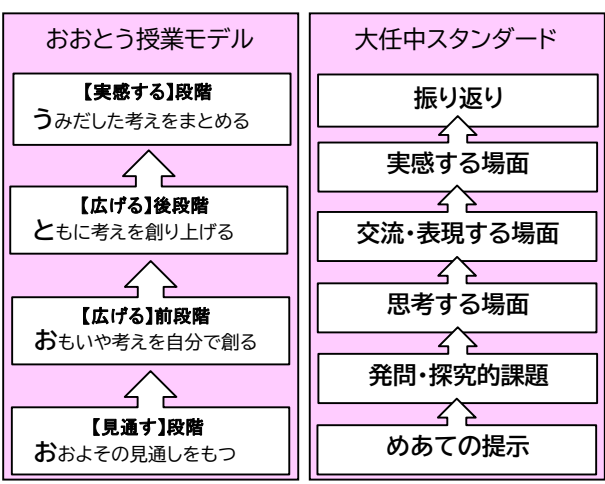
主体的に学びをつくり出す児童生徒の姿を目指して、自分の考えを整理し、深める活動におけるICTの効果的な活用に取り組みました。



■ 視点1:各教科等における効果的な活用

大任町の実践

児童生徒の学ぶ意義の実感と学びに向かう力を高めるために、「自己の学びを調整するプロセス」と「粘り強く取り組む」ための学習過程モデル「おおう授業モデル」と「大任中スタンダード」の各段階に一人一台端末の活用を位置付けています。



- 小中9年間を通した一人一台端末の「育成学力」「活用目的」「活用場面」を明確にした授業を実践している。

中学校：第3学年 社会科【わたしたちの暮らしと経済】

学習の概要
株式を購入する企業を5つの中から1社選び、選んだ根拠となる資料を収集し、自分の意見をまとめて友達に説明する。

育成学力
思考力、判断力、表現力等

活用場面：思考・交流・表現
思考：企業の調査
交流・表現：企業選定の根拠

活用目的 自分が選んだ株式を購入する理由や根拠を明確にするため、当該会社の情報、景気や経済の状況、国内や国外の情勢などを端末を使用して調査する。また、調査した結果を端末を用いて、友人と交流する。

合同授業型 【大任小と今任小の交流授業】

道徳科「6年生の責任」の学習で、道徳的問題場面に出会ったときどうするかをデジタルホワイトボードで立場表明し、話し合った。違う学校の6年生の考えを聞くことで、「6年生の責任」についての考えを深めていく。

- 児童会・生徒会活動ではアンケート機能やオンライン会議機能を活用するとともに、**目的に応じた遠隔授業(教師支援型、合同授業型、個別支援型)**を実施している。

■ 視点2:児童生徒のICT活用能力の育成

大任町の実践

児童生徒のICT活用能力を育成するために、基本的な操作技能向上や情報モラル教育、情報セキュリティに関する理解を図る実践の充実に取り組んでいます。

- 基本的な操作技能の一つであるタイピングスキルを育成するために、**発達段階に応じた目標値を設定し**、朝の活動や強化週間での練習に取り組んでいる。

タイピングスキルの目標値
(1分間あたりの文字数)

【小学校 中学年】30文字/分
【小学校 高学年】60文字/分
【中学校 全学年】80文字/分



- 各教科の情報に関する学習内容と情報活用能力の体系表を参考に、**教科等横断的な視点で情報モラルや、情報セキュリティに関する年間指導計画を作成している。**



■ 視点3:全教職員のICT活用能力の向上

大任町の実践

教員のICT活用指導力を高めるために、教員のICT活用能力の実態に基づいて研修を充実させる等校内体制を整えています。

◆基本方針：研究主題具現化の基盤整備として、教職員のICT活用指導力を向上させる校内体制を整える。

教職員のICT活用スキルの実態と現状分析

- 校務用PCの活用スキルは平均よりも高い状況
- 一層の校務デジタル化にも対応できる状況
- 電子黒板や書画カメラは毎日の授業で活用している
- 一人一台端末の機能への理解と活用スキルには差が見られる
- 活用の実践が断片的で拡散している

ICT活用スキルの自己点検

- 新しい校務支援システムの導入に合わせて研修が必要
- 更なる校務の効率化を図るアイデアのボトムアップ
- 学年・教科内で日常的に学び合える場の設定が必要
- 全校の実践を整理し、ICTの機能ごと、教科ごと、授業の学習過程ごとに整理する
- 情報教育班と研修班及び研究推進委員会で調整

苦手意識が低い / スキルが高い / 苦手意識が高い / スキルが低い

- 文部科学省の「教員のICT活用指導力チェックリスト」を参考に教職員の実態を把握し、その能力向上の具体的な目標と研修計画を立て、町内研修会及び校内研修会を実施している。

	1年次 研究の方向性確立	2年次 研究内容の充実	3年次 研究内容の深化
研究主題の究明 ICT活用の授業改善	研究主題等の設定 実証授業	研究仮説の検証 実証授業・実践研究	研究成果のまとめ
大任町主催の 小中技能研修	端末やアプリの 基本操作	共有機能に関する 授業活用研修	各種アプリの 授業活用研修
校内研修	小中合同指導案検討 校内授業研修	小中合同指導案検討 校内授業研修・先進校視察	小中合同指導案検討 校内授業研修

合同研修

- 指導案審議
- 異校種授業への自主参加

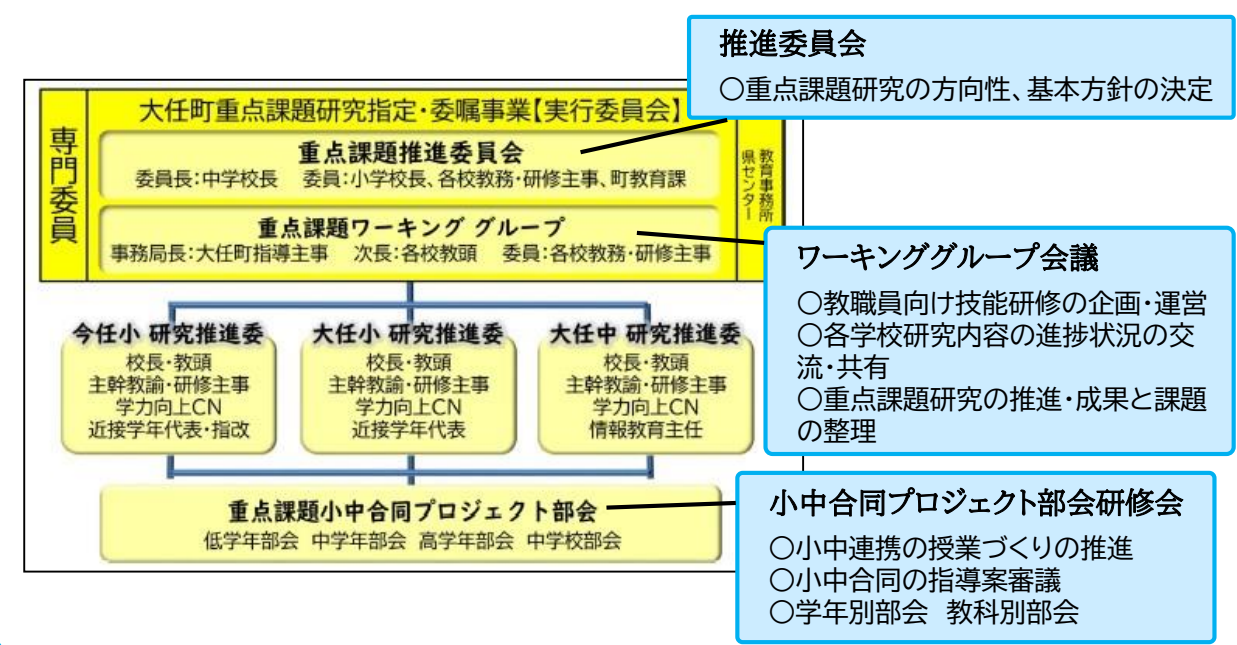
【教職員のICT活用指導力を高める3年間の計画(一部)】

■ 視点4:効果的活用を図るための推進体制

大任町の実践

小学校・中学校が連携・一環した研究を推進するために、大任町重点課題研究指定・委嘱事業実行委員会を中心とした体制を整えています。

- 各種データ収集・分析等を推進し、町全体で教職員が内容を共有できるように組織体制を機能化している。

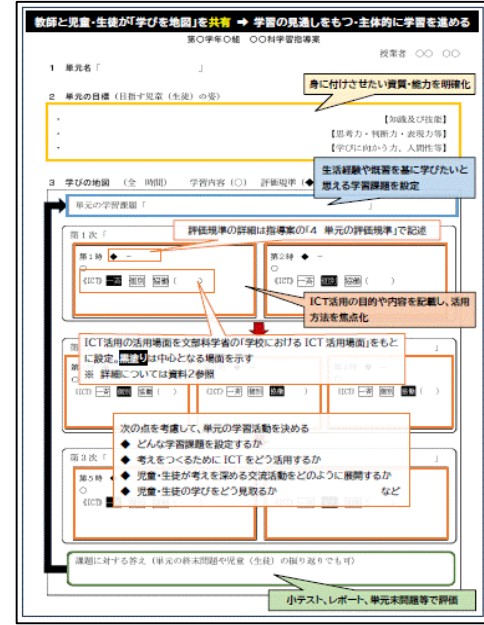


視点1:各教科等における効果的な活用

行橋市の実践

児童生徒の主体的な学びをつくり出すために「学びの地図」の作成とスタディ・ログを活用した授業づくりに取り組んでいます。

- ICTの活用目的や場面を明記した単元計画「学びの地図」を作成し、端末上で教師と児童生徒が共有している。



- 【学びの地図の特徴】
・身に付けさせたい資質・能力を明確化
・生活経験や既習を基に学びたいと思える学習課題を設定
・ICT活用の目的や内容を記載し、活用方法を焦点化
・小テスト、レポート、単元末問題等の評価方法を明記
・端末上で教師と児童生徒が「学びの地図」を共有

- 活動の目的に応じて一人一台端末に蓄積した学習記録(ログ)を活用する場面を位置付け、児童生徒は必要な情報を自ら選択できるようにしている。

- ドリル教材の学習履歴を活用して学級全体の取組状況や正答率を把握し、指導方法の改善や個別の支援を行っている。



行橋市の実践

視点2:児童・生徒のICT活用能力の育成

児童生徒のICT活用能力を育成するために、発達段階に応じた技能向上の取組や情報モラル教育の充実に取り組んでいます。

Table showing ICT usage levels (レベル1-3) for elementary school students across different subjects and skills.

【ICT活用能力系統表(小学校)】



- 国語科:第1学年「情報の整理・分類」、第2学年「メディアの特徴・比較」、第3学年「情報の信頼性」
社会科:第3学年「私たちが生きる現代社会」
理科:第1学年「地震の災害」、第3学年「エネルギーの利用」
保健体育科:第1学年「休養・睡眠とスマートフォンの関わり」、「性情報への対処と行動」

【情報モラル及び情報セキュリティに関する学習と教科の関連(中学校)】

視点3:全教職員のICT活用能力の向上

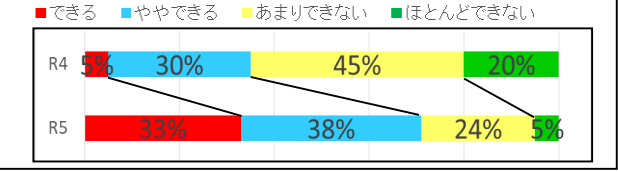
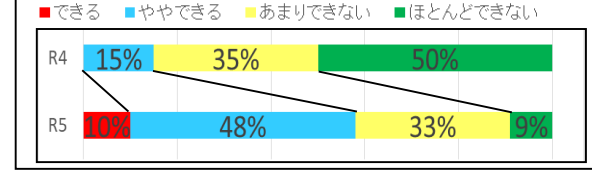
行橋市の実践

教員のICT活用指導力を高めるために、教員のICT活用能力の実態に応じた研修を充実させています。

- 文部科学省の「教員のICT活用指導力チェックリスト」を参考に「教職員のICT活用能力アンケート」を作成し、教員のICT活用能力の実態に応じた研修を実施している。

【児童のICT活用を指導する能力(例)】児童がワープロソフト・表計算ソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめたりすることができるように指導する。

【授業にICTを活用して指導する能力(例)】知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ドリルなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。



- 【実施した研修】
○基本的な操作方法や情報セキュリティに係る研修
○授業づくりに関するICTの活用方法の提案
○授業におけるICTの有効な活用方法を学ぶ研修
○学力向上のために必要な児童・生徒のICT活用能力を把握するための研修等



行橋市の実践

視点4:効果的活用を図るための推進体制

小学校・中学校が円滑に連携するために、行橋市教育情報化推進委員会を中心とした体制を整えています。

- 行橋市教育委員会が中心となり小学校と中学校の連携推進体制を確立するとともに、「情報化推進ロードマップ」を作成し、年間を通じて計画的に研修会や担当者会を実施している。また、小中が同じ推進体制をつくり、合同研修会を実施することで、協働的に研究している。

Table showing the 'Informationization Promotion Roadmap' with activities for elementary and middle schools from year 4 to 8.

【行橋市教育情報化推進ロードマップ】